

# 緊急消防援助隊情報

## 平成29年度地域ブロック合同訓練の実施結果

### 広域応援室

#### 関東ブロック 群馬県実行委員会

平成29年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練は、群馬県内での地震に起因する大規模災害を想定し、緊急消防援助隊の応援等の要請等に関する要綱及び緊急消防援助隊の運用に関する要綱に基づく出動要請、部隊の参集・配備等について受援体制を検証しました。また、県内消防応援隊、緊急消防援助隊及び各関係機関との連携強化を図ることを目的とし、県南部の複数会場において、次のとおり実践的な訓練を実施しました。

#### 1. 実施日

平成29年10月24日（火）、25日（水）

#### 2. 実施場所

群馬県 太田市、桐生市、高崎市、前橋市

#### 3. 実施内容

##### (1) 訓練想定

平成29年10月24日（火）8時30分、群馬県南部（太田断層）を震源とする地震が発生し、群馬県内では最大震度6強を観測しました。この地震により県内では、建物の倒壊、土砂災害、火災、道路損壊等が発生し、甚大な被害となっているため、知事は、消防庁長官に対して緊急消防援助隊の出動を要請しました。

##### (2) 本部運営訓練

想定地震発生後に、県庁には災害対策本部及び消防応援活動調整本部を、太田市消防本部、桐生市消防本部及び高崎市等広域消防局には指揮本部及び指揮支援本部を設置し、緊急消防援助隊の応援要請等に係る情報伝達、受援調整、部隊活動調整等について、次のとおり二部構成で図上訓練を実施しました。

##### ア 第1部

図上訓練の高度化・高頻度化を図ることを目的として、消防庁が作成した緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練図上訓練作成マニュアルを活用して実施しました。

##### イ 第2部

実動訓練と連動させ、参集した緊急消防援助隊の活動に対して実践的な指揮・管理を行いました。

#### 《今後の課題》

- 実動訓練と連動させなかった第1部から実動訓練と連動させた第2部へ移行する際の訓練環境（状況）の

再設定に苦慮しました。

- 消防応援活動調整本部と県災害対策本部のレイアウトが近接していなかったため、災害情報や部隊調整情報の十分な共有が図れませんでした。



消防応援活動調整本部設置運営訓練（群馬県庁）

##### (3) 部隊参集訓練

参集した緊急消防援助隊が部隊運用訓練会場到着後、速やかに活動を開始できるように、作戦会議、訓練準備等が可能な進出拠点を複数設置しました。統合機動部隊と都県大隊は別々に出動し、統合機動部隊と都県大隊の情報共有、連携体制の強化を図りました。

#### 《今後の課題》

- 第1部の本部運営訓練では支援情報共有ツールを使用し、第2部の本部運営訓練では緊急消防援助隊動態情報システムを使用することとしたため、各都県大隊内で十分な情報共有が図れませんでした。訓練実施時における緊急消防援助隊動態情報システム及び支援情報共有ツールの活用方法について、改めて検討する必要があると感じました。

##### (4) 部隊運用訓練及び部隊移動訓練

部隊運用訓練は、地震被害を想定したトンネル崩落事故、土砂災害事故、列車脱線事故、大規模火災等の各種訓練を陸上自衛隊、県警察本部、DMAT、災害救助犬関係団体等の関係機関と連携して行いました。

なお、4会場における同時並行型訓練とし、うち2会場では、活動が長時間に及ぶ場合を想定して夜間継続訓練を実施しました。





また、余震により新たな被害が発生したという想定により、災害が収束した被災地で活動する一部の都県大隊の部隊移動訓練を実施しました。

なかったため、状況に応じた受援側主導による運営の必要性を再認識しました。

#### 《今後の課題》

- 予想進出時刻と実際の進出時刻の差異や部隊移動（転戦）により、一部の都県大隊の部隊運用訓練時間を十分確保できず、各都県大隊の活動時間に偏りが生じました。



土砂災害救助訓練（明盛宏産株式会社砕石場）



宿営訓練（太田市運動公園（体育館））

#### 4. おわりに

今回の訓練では、複数の都県大隊と多様な関係機関の連携、被災県消防本部指揮隊による現地合同調整所の運営調整、夜間継続訓練の実施、後方支援中隊相互による調整等、より実践的な訓練となるよう計画しました。

群馬県における緊急消防援助隊の受援や部隊運用、関係機関との連携活動等における課題が明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練であったと考えています。

今後、訓練で得られた成果や課題を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

最後に、本訓練の実施に際しまして、多大な御協力を賜りました関東ブロックの各都県、各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。



列車脱線事故救助訓練  
（JR東日本高崎支社総合訓練センター）

#### (5) 後方支援活動訓練及び燃料補給訓練

後方支援活動訓練では、部隊運用訓練会場での活動を可能としました。また、2か所の運動公園内で宿営訓練を実施し、それぞれ屋外での宿営と既存施設（体育館）での宿営としました。

さらに、宿営場所において消防車両への軽油及びガソリンの燃料補給訓練を実施しました。

#### 《今後の課題》

- 宿営場所における各都県大隊の宿営エリア及び炊事エリアの割振りは、後方支援中隊長会議を開催して決定することとしていましたが、各都県大隊の到着時間に大きな差があり、先着した隊の宿営準備が進められ





## 近畿ブロック 大阪府実行委員会

平成29年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練は、近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練及び関西広域応援訓練と併せ、近畿府県合同防災訓練として2日間にわたって実施しました。

緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練については、出動体制や関係機関との連携活動の検証を行うとともに、大阪府及び被災想定市の受援体制の向上を図ることを目的に実施しました。

### 1. 実施日

平成29年11月4日（土）、5日（日）

### 2. 実施場所

大阪府 大阪市、堺市、豊中市

### 3. 実施内容

#### (1) 訓練想定

平成29年11月4日（土）9時00分、大阪府中南部の上町断層帯を震源とする直下型地震が発生し、大阪市及び堺市で最大震度6強を観測しました。さらに、9時50分には大阪府北部の有馬高槻断層帯を震源とする地震が発生し、豊中市で震度5強を観測しました。

これらの地震により、大阪市、堺市及び豊中市を中心とする地域で、ビル倒壊、石油コンビナート火災、地下鉄災害等の都市型災害、木造密集市街地火災、土砂災害等の郊外型災害が同時に発生し、甚大な被害が生じました。

大阪府内の消防機関は、府下広域消防相互応援協定に基づき、府内応援隊を出動させて活動を開始しましたが、それでもなお、消防力劣勢のため、知事は緊急消防援助隊の応援要請を行いました。

#### (2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、府庁には災害対策本部及び消防応援活動調整本部を、大阪市消防局、堺市消防局及び豊中市消防局には指揮本部及び指揮支援本部を設置し、緊急消防援助隊の応援要請等に係る情報伝達、受援調整、部隊活動調整等について、実動訓練と一部連動させた図上訓練を実施しました。

本訓練では、府庁と消防本部を結んで2度のTV会議を実施し、顔が見える状態で情報共有や今後の対応についての検討・指示を行いました。

#### 《今後の課題》

- 図上訓練と実動訓練を一部連動させたことから、実動訓練のタイムスケジュールに合わせる必要があり、発災から応援要請までの流れが時間的に厳しいものになりました。



消防応援活動調整本部設置運営訓練（府庁）

#### (3) 参集訓練及び受援対応訓練

府庁の調整本部に出動する指揮支援部隊長及び堺市消防局に出動する指揮支援隊長は車両で、大阪市消防局及び豊中市消防局に出動する指揮支援隊長はヘリコプターで各出動先に参集しました。

また、大阪府内4か所を進出拠点とし、受援対応訓練を実施しました。大阪府中南部を震源とする地震発生50分後に大阪府北部を震源とする地震が発生するという想定にしたことから、一部の部隊にとっては、進出拠点への出動途中に転進するシナリオになりました。

#### 《今後の課題》

- 渋滞を緩和するため進出拠点参集経路及び参集予定時刻をあらかじめ設定しましたが、実災害時においても迅速な進出に配慮した計画が必要と感じました。

#### (4) 部隊運用訓練及び後方支援活動訓練

部隊運用訓練は、堺泉北港堺2区基幹の広域防災拠点（堺市：メイン会場）及び舞洲消防訓練用地（大阪市：サブ会場）の2か所において実施しました。

訓練1日目は、両会場において、映像情報収集伝達訓練、斜面崩落救出訓練、トンネル崩落事故救出訓練、倒壊ビル地下駐車場崩落事故救出訓練、地下鉄浸水救出訓練等、計10項目の訓練を実施しました。

訓練2日目は、自衛隊、警察、海上保安庁、DMATのほか、地元消防団や多くの民間機関が参加し、1日目の訓練項目に、大規模火災消火訓練、NBC事故救出訓練、船舶火災消火訓練、漂流者救出訓練等を加えた計16項目の訓練を両会場で実施しました。

特に、堺泉北港堺2区基幹の広域防災拠点（メイン会場）では、カーフェリーにより進出した熊本県大隊が倒壊家屋及び倒壊ビル救出訓練に参加したほか、岡崎市消防本部の全地形対応車（レッドサラマンダー）





がトンネル崩落事故救出訓練に、神戸市消防局のドラゴンハイパー・コマンドユニットが石油コンビナート火災消火訓練に、京都市消防局の高度救急救護車（ハイパーアンビュランス）がDMA Tと連携した傷病者対応訓練に、それぞれ参加し、最新の技術力を発揮して活動を行いました。

また、出動した全大隊は、舞洲スポーツアイランド空の広場（大阪市）に結集し、支援車I型、拠点機能形成車等を活用した後方支援活動訓練を実施しました。

### 《今後の課題》

- 今回の訓練を通じて、自衛隊、警察、海上保安庁、DMA T等の関係機関だけでなく、地元消防団や民間機関と連携強化を図ることができました。今後も、様々な機会を通じて、官民の関係機関との更なる連携強化を図ってまいりたいと考えています。



閉会式における坂井総務副大臣挨拶  
（堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点）

### 4. おわりに

今回の訓練は、実災害現場と同様、訓練会場に到着して初めて状況が分かる“ブラインド型訓練”を行ったことから、より実践的な訓練になりました。

また、都市型災害をはじめ、大阪の地域特性に応じた内容の訓練を実施することができました。

今後、訓練で得られた成果や課題を踏まえ、緊急消防援助隊受援計画を見直すなど、受援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

結びに、本訓練の開催に当たり、多大な御支援・御協力を賜りました近畿ブロックをはじめとする各府県、各消防機関、官民の関係機関及び地元企業の皆様へ心より感謝申し上げます。



トンネル崩落事故救出訓練に向かう全地形対応車  
（堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点）



石油コンビナート火災消火訓練に参加した  
ドラゴンハイパー・コマンドユニット  
（堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点）

### (5) 坂井総務副大臣の訓練視察

11月5日、メイン会場である堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点において、坂井総務副大臣が訓練を視察され、閉会式では御挨拶をいただきました。

#### 問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527（直通）